



HPIはこちら



テーマ

生成AIの活用による補助金申請支援業務の効率化と展示会成果の可視化

DXチャレンジのきっかけ

業者支援としてDX推進を後押しする立場にある一方で、自組織内のDXは具体的に進んでいるとは言い難い状況でした。そのため、まずは自ら実行に移すことで、取り組みのきっかけづくりになると考えました。

具体的な課題

01 補助金申請支援の工数過多

補助金申請資料の作成に不慣れな事業者が多く、指導時のポイントの整理や添削に膨大な時間を要している。

02 展示会成果の不透明化

成果が交換した名刺数という傾向があり、正確な商談数や進捗が追えず効果測定が困難となっていた。

伴走支援取組内容



AIを活用した採択事例の分析・要点整理

過去の補助金採択事例から「勝ち筋」を分析し、資料作成の要点を押さえたヒアリングシートを作成するとともに、添削や仕上げに生成AIを活用することで精度向上と業務効率化を検討。



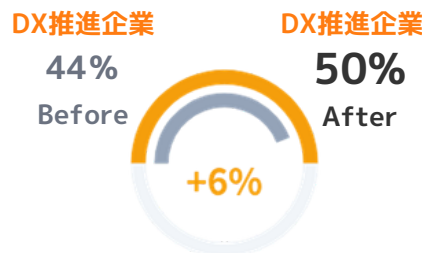
名刺管理ツールの導入検討

名刺の管理や商談の進捗管理まで出来るツールの導入を検討。

得られる成果（未来予測）

- 申請書作成支援業務の**時間削減**
- 展示会商談データの**可視化**

DX推進度の変化



~30% : DX準備企業 ~79% : DX推進企業 ~100% : DX先進企業

企業担当者の声

サポートを受け、現状の業務フローからボトルネックを洗い出し、ITツール活用を前提とした改善プロセスを特定しました。その過程を職場全体で共有したことで、課題を組織全体の問題として認識でき、有意義な取組となりました。

DX推進には、従来の当たり前を見直し、解凍・変革・再凍結を前提とした組織風土の醸成が最も重要であると実感しました。

今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

DX推進は、これまで培ってきた「当たり前」を見直し、変えていく勇気が求められる取組です。何よりも重要なのは、それを自分事として捉え、自主的に行動する姿勢です。そうした挑戦の先にこそ、それにふさわしい成果が生まれると信じ、まずは最初の一步を踏み出してください。